

速報版

2010年5月6日

マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション、2010年第1四半期業績を発表

- 純利益が11億ドルを突破
- 強固な自己資本水準 - 第1四半期末現在におけるMLIのMCCSR率は250%を確保
- 高収益事業が堅調な伸びを示す - 引き続き、収益性の高い商品・サービスの販売に注力
- 高収益商品の比重を高めた商品構成への切り替えに加え、前年同期実績を上回る販売の伸びを達成。これに伴い、新契約エンベディッド・バリューが大幅に増大
- アジアにおける保険販売は前年同期比35%増、米国およびカナダにおけるミューチュアル・ファンド販売は前年同期比105%増および267%増を、それぞれ達成
- 変額商品に係る保証に対するヘッジの追加実施により、引き続き、株式リスク・プロフィールの改善に向け取り組み中
- 市場環境に比し投資与信関連の実績が堅調に推移

トロント - 本日、マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーション（以下「MFC」）は、2010年3月31日を期末日とする2010年第1四半期の株主純利益として11億4,000万ドルを計上したと発表しました。希薄化後1株利益および普通株株主資本利益率¹はそれぞれ0.64ドルおよび16.8%となりました。前年同期において、MFCは10億6,800万ドルの純損失（1株損失は0.67ドル）を計上しています。

当社は、2009年度年次報告書において、2010年中の各四半期の予想調整後事業利益²が7億ドルから8億ドルの間になるであろうとの将来の展望に関する記述を盛り込んでいます。この定義にもとづく当四半期の調整後事業利益は7億4,200万ドルとなります。

ドナルド A. グロイオン社長兼 CEO は次のように述べています。

「2010年第1四半期は業績面で申し分のない四半期となりました。目標とする諸事業分野において順調に販売を伸ばし、効果的に事業費を管理し、強固な資本基盤の維持およびリスクの軽減を達成し、堅調な純利益と ROE（株主資本利益率）を、株主の皆様へ提示することができました。当社役員が一丸となり、長期的に持続可能な価値の創出に向け全力で取り組んでおり、その成果が着実に現れています。カナダおよびアジア地域で既に立証されている高い競争力に加え、回復軌道に乗る米国経済ならびに市場環境全体に比し好調な資産運用実績が原動力となり堅調な業績を上げるこ

¹ 普通株株主資本利益率（Return on common shareholders' equity）は、非 GAAP 指標です。以下に記載の「業績および非 GAAP 財務指標（Performance and Non-GAAP Measures）」の項を参照願います

² 調整後事業利益（Adjusted earnings from operations）は、非 GAAP 指標です。以下に記載の「業績および非 GAAP 財務指標（Performance and Non-GAAP Measures）」の項を参照願います

とができました。マニュライフは、有機的かつ戦略的成長を生み出す事業機会を将来にわたり最大限に活用できる万全の態勢にあります。」

財務業績

マイケル W. ベル SEVP 兼チーフ・フィナンシャル・オフィサー (CFO) 次のように語っています。「第 1 四半期業績で特筆すべきことは、堅調な販売の伸びと純利益を同時に達成したことでしょう。当社主要市場全般における景気回復感の高まりと経済成長率の上昇を背景に、高収益保険商品および資産運用商品が大幅な伸びを示しました。高水準の純利益を生み出した要因としては、コア事業における収益の堅調な伸びに加え、好調に推移する株式市況そして債券投資の好調な運用実績が挙げられます。保有変額年金契約を対象とするヘッジの追加実施により調整後事業利益が抑えられる結果となったものの、これにより、株式リスクをさらに軽減することができました。当社資本基盤は依然として強固であり、当社の強みである財務健全性は引き続き当社ブランド力の強力な基盤であり続けています」

2010 年第 1 四半期における純利益は、株式市況の上昇に伴う収益増、責任準備金評価に好影響を及ぼす債券投資およびその他資産運用関連項目を反映しています。これら純利益増の一部は、以前公表しているレバレッジド・リース投資案件に係る税務関連費用の計上、契約者関連エクスペリエンス（発生率や解約率等）の悪化、新契約費増およびカナダドル高の影響により相殺されています。

株式市況の全般的パフォーマンスが順調に推移するとともに、変額年金ヘッジング・プログラムを継続的に実施した結果、変額年金事業において 3 億 2,800 万ドルの利益を計上しました。これに加えて、株式市況の回復が資産計上済みの変額ユニバーサル生命保険手数料および責任準備金に対応する株式に好影響を及ぼしたことから、2,300 万ドルの収益を計上しています。

債券投資活動が責任準備金評価に好ましい影響を及ぼしており、当四半期において 2 億 2,700 万ドルの資産運用関連純収益を生み出す原動力となっています。また、当四半期中における金利の変動幅は小さく、責任準備金評価または純利益に重大な影響を及ぼすには至りませんでした。

当社の債券ポートフォリオは、引き続き、全般的な市場環境が低迷する中、良好なパフォーマンスを維持しています。信用格付け格下げに関連する保険数理上の費用として 1,500 万ドルを計上した一方で、与信関連純損失は 1,700 万ドルに抑えられました。これらの金額は責任準備金評価において前提としている予想与信関連損失を若干上回った程度水準に抑えられています。

契約者関連エクスペリエンスについては、主に、ジョン・ハンコック長期介護部門の罹病率およびジョン・ハンコック・ライフでの解約率が予定水準との対比で悪化したため、純利益を 3,100 万ドル押し下げる結果となっています。

第 1 四半期において、当社は、機会を捉え、保有変額年金保証額の内、さらに 152 億ドルについてヘッジを実施するなど、株式リスク・プロフィールの改善に取り組みました。この結果、2010 年 3 月 31 日現在におけるヘッジ済みまたは出再済み保証金額の割合は 51% 近くまで上昇しており、2009 年 3 月 31 日時点における 23% および 2009 年 12 月 31 日時点の 35% から大きく改善しています。当四半期におけるヘッジングへの取り組みおよび株式市況の上昇により、ヘッジまたは再保険未実施の変額年金契約に関連する正味危険保険金額 (Net Amount at Risk) は、2010 年 3 月 31 日現在で 81 億ドルとなり、2009 年 12 月 31 日時点の 116 億ドルおよび 2009 年 3 月 31 日現在の 283 億ドルから大幅に減少しています。

ザ・マニュファクチャラーズ・ライフ・インシュアランス・カンパニーは、2010 年 3 月 31 日現在の MCSR (最低継続資本金/剰余金要件) 比率が、利益剰余金増および株式市況の改善により、前期末実績である 240% から 250% に上昇したと発表しました。市況下落に対する当社資本感応度は、変額年金保証に関連する正味危険保険金額の減少に伴い、引き続き下降傾向を示しています。

販売および事業成長

マイケル W. ベル CFO は次のように述べています。

「インシュアランス販売は、香港、日本、台湾および中国を中心に堅調な伸びを示し、前年同期比 20% 増となりました。変額年金を除くウェルス販売は、カナダおよび米国におけるミューチュアル・ファンドおよびリタイアメント商品の販売が好調に推移し、当社全体では前年同期比 21% 増を達成しています。変額年金販売については、事業構成のリバランシングおよび株式リスク軽減に向けた取り組みを推進しており、これらを反映した水準で推移しています。今後とも、当社の強みである強力なブランド力と優れた販売網を駆使して持続的成長を実現してまいります」

当四半期のインシュアランス販売総額は、為替変動の影響を除くと、前年同期比 20% 増となります。全地域にわたって経済環境が好転しつつあることから、全ての事業部門において好調な販売の伸びを達成しました。とりわけ、アジア地域での伸展は著しく、為替変動の影響を除くと³、販売は前年同期比 35% 増となっています。保険事業における新契約エンベディッド・バリュー（「NBEV」）⁴ は、商品の利幅改善策の実施および販売増を受けて前年同期比 21% 増を達成しています。

変額年金を除くウェルス販売総額は、為替変動の影響を除くと、前年同期比 21% 増となりました。個人向け変額商品および企業向け退職年金積立商品の販売は、回復基調にある株式市況の下、マーケティングおよび販売努力が功を奏し、前年同期比 51% 増を達成しています。この販売の伸びは、米国およびカナダにおける定額商品に対する需要減により一部相殺される結果となっています。変額年金を除くウェルス事業の NBEV は、全般的な販売の伸びを反映し、前年同期比約 17% 増となりました。

当四半期の変額年金商品販売は、当社が継続的に推進しているリスク管理策の実施を反映し、為替変動の影響を除くと、前年同期比 39% 減となりました。米国およびカナダにおける販売減の一部は、日本において 2010 年 4 月 1 日施行の税法改正に先立つ駆け込み需要に伴う販売増により相殺されています。変額年金契約に係る NBEV は、商品変更に加え、変額商品ヘッジング・プログラムに関連する長期金利上昇の影響により、前年同期比 37% 増となりました。

インシュアランス事業に係る 2010 年第 1 四半期の「保険料等」は、保有契約増を反映し、52 億ドルとなり、為替変動の影響を除くと、前年同期実績を 7% 上回りました。

変額年金を除くウェルス事業に係る 2010 年第 1 四半期の「保険料等」は、98 億ドルに達し、為替変動の影響を除くと、前年同期比 13% 増となります。株式市況の上昇を背景に、ミューチュアル・ファンドおよび退職年金積立商品の積立金が増加したものの、その一部は、米国およびカナダにおける定額商品販売の落ち込みにより相殺される結果となっています。

変額年金に係る 2010 年第 1 四半期の「保険料等」は、継続的に推進しているリスク管理策の実施を反映し、22 億ドルとなり、為替変動の影響を除くと、前年同期比 40% 減となっています。

2010 年 3 月 31 日現在の管理運用資産総額は 4,460 億ドルに達し、2009 年 12 月 31 日現在の実績を 70 億ドル上回りました。管理運用資産が増加したのは、当四半期において、50 億ドルの契約者純キャッシュフロー、110 億ドルの資産運用収益および事業買収に伴う 20 億ドルの運用資産を計上しており、これらの総額が 110 億ドルの為替変動による影響および事業費増を上回ったことによるもの

³ 為替変動の影響を除いた金額は非 GAAP 指標です。以下に記載の「業績および非 GAAP 財務指標（Performance and Non-GAAP Measures）」の項を参照願います。

⁴ 新契約エンベディッド・バリュー（NBEV）は非 GAAP 指標です。以下に記載の「業績および非 GAAP 財務指標（Performance and Non-GAAP Measures）」の項を参照願います。

です。2010年3月31日現在における管理運用資産総額には、MFC グローバル・インベストメント・マネジメント（以下「MFC GIM」）が外部顧客より受託のうえ運用している 1,150 億ドルの運用資産が含まれています。

事業運営ハイライト

インシュアランス（保障性保険商品セグメント）

- インシュアランス販売は、アジア地域を中心に販売を伸ばし、為替変動の影響を除くと、前年同期実績を20%上回りました。各国市場における全般的な景気回復傾向を受けて、当社全事業部門にわたり大幅な販売増を達成しました。
- 米国では、インシュアランス販売が、米国ドル建てベースで、前年同期比17%増となりました。ジョン・ハンコック・ライフでは、緩やかな景気回復を反映する一方、利幅増加策の実施もあり、販売は前年同期比6%増にとどまりました。LTC（長期介護保険）販売は、ジョン・ハンコックが一手引受保険会社となっている米国連邦長期介護保険制度（Federal Long Term Care Insurance Program）関連保険の販売増に加え、消費者による優良保険会社への逃避を一因とする個人向け保険の販売増とが相俟って、前年同期比50%増を達成しています。
- カナダでは、インシュアランス販売が前年同期実績を9%上回り、全部門にわたって堅調な伸びを示しました。消費者の購買意欲の高まりを背景に、終身生命保険が好調な販売を維持し大口案件が増加したことから、個人向け保険販売は前年同期比7%増を達成しています。団体給付金部門においても、大口案件セグメントでの業績が堅調に推移し、前年同期比13%増となり、今後の好調を予感させる順調なスタートを切っています。
- アジア地域においては、2010年第1四半期のインシュアランス販売が、為替変動の影響を除くと、香港における個人向け生命保険（前年同期比69%増）および日本（前年同期比37%増）での大幅な販売増により、前年同期実績を35%上回る堅調な伸びを達成しています。香港では、新商品の発売、営業職員数の増加および営業職員の生産性向上が販売増を促しています。日本については、遡増定期保険販売が前年同期比倍増となる大幅な伸びを記録したほか、企業向け生命・医療保険販売が好調な勢いを維持しており、加えて、当四半期中に終身保険の新商品を発売しました。中国と台湾を合算したインシュアランス販売は、為替変動の影響を除くと、前年同期実績を45%上回りました。台湾では、終身保険商品販売が好調に推移し前年同期の2倍を超える大幅な伸びを達成する一方、中国では、3月に新商品を投入したことに加え、営業職員数の増加もあり、堅調な販売の伸びを実現しています。当四半期には、香港、シンガポール、フィリピンおよびインドネシアにおいても新商品の販売を開始しました。マニユライフ-シノケム社は、中国において、当四半期中に2都市さらに4月に1都市の営業免許を新たに取得しました。この結果、営業免許を取得している都市数は42都市に達し、3億人を超える人口を擁する地域が同社の市場となっています。

ウェルス・マネジメント（資産運用商品セグメント）（変額年金を除く）

- 2010年第1四半期における変額年金を除くウェルス商品販売は、為替変動の影響を除くと、前年同期比21%増となりました。個人向け変額商品および企業向け退職年金積立商品の販売は、株式市況の回復に加え、これら商品への重点的マーケティング・販売努力が功を奏し、前年同期実績を51%上回りました。但し、販売増の一部は定額商品の需要減により相殺される結果となっています。
- 米国では、変額年金を除くウェルス商品販売が、米国ドル建てベースで、前年同期比53%増を達成しました。全般的な販売増は、ジョン・ハンコック・ミューチュアル・ファンズおよびリタイアメント・プラン・サービス各部門において、それぞれ、前年同期比105%増および66%増となる堅調な伸びを達成したことによるものであり、定額商品部門における前年同期比45%の落ち込みを補って余りある大幅増となりました。これら商品ラインにおける大幅な躍進を牽引し

た要因としては、株式市況の回復、多種多様なファンドの投入ならびに最近数年間にわたって構築してきた強力な販売提携関係が挙げられます。ミューチュアル・ファンズ部門およびリタイアメント・プラン・サービズ部門における堅調な業績により、純販売高も前年同期実績を12億米ドル上回りました。この結果、ミューチュアル・ファンズ部門では、純販売高が4四半期連続で増加するという快挙を成し遂げるとともに、2月末までの好調な販売により、当社マーケットシェアおよびランキングが共に上昇しています。

- **カナダ**においては、変額年金を除くウェルス商品販売が前年同期実績を1%上回りました。マニユライフ・ミューチュアル・ファンズ部門は、当社事業戦略における重点注力分野のひとつであり、消費者の購買意欲の高まりに加え、株式市況の回復も相俟って、前年同期比ほぼ4倍増となる総販売高を達成するなど、最近10年間でもベストの四半期の一つとなる卓越した業績を上げました。グループ・セービングスおよびリタイアメント・ソリューションズ両部門における販売も、団体給付金部門が築いた良好な顧客関係を最大限に活用したことなどにより、前年同期比10%増を実現しています。定額商品販売は、2009年同期に達成した過去最高水準を38%割り込むとともに、マニユライフ・バンクの貸付額も、不動産市場の低迷および競争の激化を反映し前年同期比10%減となりました。当四半期において、マニユライフは、北米地域におけるエドワード・ジョーンズとの販売提携関係の一層の拡大を継続的に推進しており、その一環として、同社傘下のフィナンシャル・アドバイザーがマニユライフの先進的な債務管理&バンキング・ソリューションを顧客向けフィナンシャル・プランに正式に組み込むことができるようになりました。
- **アジア地域**では、変額年金を除く第1四半期のウェルス商品販売は、為替変動の影響を除くと、前年同期比51%減となりました。2009年第1四半期の販売には、香港政府による単発ベースでの年金ファンドの追加および台湾におけるマネー・マーケット・ミューチュアル・ファンドの販売増が含まれています。また、当四半期中に、日本、マレーシア、インドネシアおよび台湾において新商品の販売を開始しています。
- 当四半期において、MFCは、Fortis Bank SA/NVが保有するABN AMRO TEDA Fund Management Co. Ltd (「ABN AMRO TEDA」社)の株式49%を同社より取得する手続きを全て完了しました。同社の社名も、Manulife TEDA Fund Management Company Limited (「マニユライフ TEDA」)に改称されています。本取引が終了した結果、MFCがアジア地域において有する資産運用専門会社は9社に増え、世界全体でも、16の国・地域に事務所を擁する企業グループに成長しています。2010年3月31日現在のアジア地域における管理運用資産は580億米ドルに達しています。
- **MFC グローバル・インベストメント・マネジメント** (「MFC GIM」) が外部顧客から受託のう え管理する第1四半期末現在の運用資産残高は、1,150億ドルに達し、前年同期実績を51億ドル上回りました。管理運用資産増をもたらした主な要因としては、マニユライフ TEDA が保有する積立金の49%相当分が追加されたことならびに純販売高増および良好なマーケット・パフォーマンスが挙げられますが、その一部は、カナダドル高の影響により相殺されています。

ウェルス・マネジメント (資産運用商品セグメント) - 変額年金

- 当社では、全ての地域において、リスク・プロフィールのバランス改善に向けた取り組みを継続的に推進しており、それを反映して、変額年金販売も引き続き低下傾向を示しています。第1四半期の変額年金販売は、為替変動の影響を除くと、前年同期比39%減となっています。米国およびカナダにおける販売の落ち込みは、日本における2010年度税法改正前の駆け込み需要に伴う販売増により一部相殺される結果となっています。
- 当社では、好調な株式市況および有利な金利水準を活用し、好機を捉え、保有変額年金契約の内、総計152億ドルの保証額 (内訳: カナダで42億ドル; 米国で110億ドル) を対象に追加ヘッジを実施しました。これにより、2010年3月31日現在におけるヘッジまたは出再済み保証額の割合

は51%に達しています。米国、カナダおよび日本で計上する実質上全ての変額年金新契約について、引き続き、ヘッジを実施しています。

コーポレート

- 第1四半期において、マニュライフ取締役会は、監査委員会およびリスク委員会を新たに設置すると発表しました。2008年9月以降における金融市場の乱高下および日々変化するリスク環境に対応するため、当社取締役会では、リスク状況の監視に重点を置いた取り組みを行っていますが、今後も、引き続き、その取り組みを継続していくことにしています。
- また、当社は、2010年5月18日の取引終了時における株主名簿記載の株主を対象に2010年6月21日以降に支払われる当社普通株式1株当たりの四半期配当金を0.13ドルとすることが当社取締役会で承認されたことを受け、本日、別のプレスリリースにてこの旨の発表を行っています。

役員人事

- 本日、マニュライフ・ファイナンシャル・コーポレーション（「MFC」）は、チーフ・オペレーティング・オフィサー（COO）であるジョン D. デプレ三世がこのほど当社を去ることになったと発表しました。同氏は、19年という長きにわたり、マニュライフおよびジョン・ハンコックで活躍されたベテランであり、当社経営幹部として様々な職責を果たしていただきました。現CEOの就任初年度において重要な役割を担い、同CEOを支えていただいたことに感謝します。COOの役職は今回限りで廃止することとし、今後、各事業部門の統括責任者は社長兼CEOに直接報告することになります。
- EVP 兼チーフ・アクチュアリーとして7年間にわたりその重責を担った後、サイモン・カーティスが、マニュライフにおいて新たなキャリアに挑戦することになりました。今後は、EVPとしてコーポレート・ディベロプメント部門を率いることになります。この人事の正式な実施は、2010年第2四半期業績報告および2010年8月5日に開催される取締役会終了後に行われる予定です。カーティスは、マニュライフのコーポレート・ディベロプメント分野における合併&事業買収業務について幅広い経験と知識を有し、ジョン・ハンコックとの統合および日本での事業買収において重要な役割を果たしました。新職では、事業買収、業界調査および全社戦略の策定を担当することになります。カーティスは、コーポレート・ディベロプメント担当 SEVP 兼ゼネラル・カウンシルである J-P ビズネアに報告することになります。
- 2010年8月6日をもって、シンディ・フォーブス（FSA、FCIA）がサイモン・カーティスの後任として、EVP 兼チーフ・アクチュアリーに就任します。フォーブスは、アジアでの6年間の勤務を終えカナダに戻るることになります。現在、フォーブスはマニュライフ・アジア事業部担当 CFO の職にありますが、その前は、マニュライフ生命（日本）で CFO を務めていました。アジアに赴任する前は、カナダ再保険部門担当 CFO として活躍し、また、インベストメントおよび米国年金部門での勤務も経験しています。フォーブスは、今後、カーティスと緊密に協力しながら引き継ぎを行っていきます。アジア担当 CFO の後任人事については、後日発表される予定です。フォーブスは、SEVP 兼 CFO であるマイケル・ベルに報告することになります。
- 35年にわたり本社・各種事業部門において要職を歴任し、現在はコーポレート・アフェアーズ & ヒューマン・リソースズ担当 EVP であるダイアン・ビーンが、このほど、退職することになりました。ビーンの後任としてステファニー・キングスミルがヒューマン・リソースズ担当 EVP に就任します。キングスミルは、現在、SVP 兼不動産担当ゼネラル・マネージャーの職にあり、当社が保有する60億ドルの不動産物件の管理運営業務を統括しています。二人とも、「カナダで最も影響力のある女性トップ100」に選ばれています。ケビン・アドルフェが、現職のインベストメンツ・ディビジョン担当 COO に加え、不動産部門の統括責任者を兼務することになります。アドルフェは、EVP に就任するとともに、引き続き、MFC の SEVP 兼 CIO であるウォーレン・トムソンに報告することになります。

受賞・認定状況

- カナダにおいて、マニユライフ・ミューチュアル・ファンズは、資産運用における優秀性が高く評価され、リッパー・アワードの資産運用部門で5つの賞を受賞しました。今回受賞したファンドは、「マニユライフ・マンスリー・ハイ・インカム・ファンド」、「マニユライフ・ストラテジック・インカム・ファンド」、「マニユライフ・カナディアン・ボンド・プラス・ファンド」、「AIC グローバル・リアル・エステート・ファンド」および「バリュー・リーダーズ・バランスド・インカム・ポートフォリオ」の5つです。
- ジョン・ハンコック・ファンズは、ウェブ・マーケティング・アソシエーションが主催する2010年度インターネット・アドバタイジング・コンペティション・アワードの3つの部門で賞に輝きました。ベスト・フィナンシャル・サービスズ・インタラクティブ・アプリケーション部門では、ロス IRA コンバージョン・カルキュレータが、ベスト・フィナンシャル・サービスズ・オンライン・ビデオ部門では、ボラティリティ E-マーシャルが、そして、ベスト・フィナンシャル・Eメール・メッセージ部門では、ポートフォリオ・インサイトが、それぞれ、受賞しています。さらに、同部門は、バロン社主催の2009年度ミューチュアル・ファンド・ファミリー・ランクにおいて、23のファンドを追い越し、61のファンド・ファミリー中、第8位に躍進しました。
- 中国では、マニユライフ-シノケム社が主要新聞紙より2年連続で「中国において最も競争力に優れた外資系合弁生命保険会社」に選ばれるとともに、国務院国家経済統計局より「最優秀企業」の一社に選ばれています。本年この栄誉を受けた外資系合弁保険会社は同社のみです。また、主要メディア・グループが北京で開催した2009年度ファイナンス・チャイナ・フォーラムにおいて「優秀ブランド構築」賞を受賞しています。
- MFC グローバル・インベストメント・マネジメントは、「アジア・アセット・マネジメント」誌より2009年度の台湾で最も革新的な商品に贈られる「ベスト・オブ・ベスト」賞に加え、同年の最優秀 CEO に贈られる「ベスト・オブ・ベスト」リージョナル・アワードを受賞しました。

注記:

マニユライフ・ファイナンシャル・コーポレーションは、2010年5月6日午後2時（北米東部時間）に第1四半期決算に関する電話会議を開催します。参加を希望される場合には、カナダおよび海外からお掛けの場合は共に (416) 340 - 2216 に、また北米地域からお掛けの場合は、通話料無料の (866) 898-9626 に電話会議開始10分前にお電話いただき、お名前と組織・会社名を電話交換手にお告げください。尚、本会議の内容は、(416) 695 - 5800 または (800) 408-3053（パスコード3274828#）にお電話いただければ、2010年5月6日午後6時（北米東部時間）から2010年5月21日までの間、録音にてお聴きいただけます。

また、同電話会議の様子は、2010年5月6日北米東部時間午後2時からマニユライフ・ファイナンシャル社ウェブサイトのウェブキャスト www.manulife.com/quarterlyreports でご覧いただけます。同日午後4時30分（北米東部時間）より、同じURLで同電話会議ウェブキャストの保存版がご覧になれます。

2010年第1四半期の財務諸表ならびに統計情報をまとめたパッケージは、次のマニユライフのウェブ・サイトからでもご入手いただけます: www.manulife.com/quarterlyreports. これら資料はウェブキャスト開始前にダウンロードすることができます。

報道関係者からのお問い合わせ先:

David Paterson

(416) 852-8899

david_paterson@manulife.com

Laurie Lupton

(416) 852-7792

laurie_lupton@manulife.com

投資関係者からのお問い合わせ先:

Amir Gorgi

(416) 852-8311

amir_gorgi@manulife.com